

第29回(2019年)

全国花のまちづくりコンクール

受賞者 写真集



花のまちづくりコンクール推進協議会

団体部門 特定非営利活動法人渋川広域ものづくり協議会（群馬県渋川市）花と緑による「ものづくり・まちづくり」の広域活動



会の発足は2000(平成12)年で、約10年前から市内各所で草花や市の花であるアジサイを主とした花木によるまちづくりに取り組み始めました。活動拠点となる小野池あじさい公園と隣接する里山(1ha)で、アジサイ管理の他、あじさいまつりや桜まつり、秋まつりを開催し、園内のガイドや苗木提供、栽培相談などを行っています。四季折々の花木が楽しめる散策路の整備を進めながら、地域の環境保全につなげています。高速道のインターチェンジ周辺や国道の中央分離帯、駅から公園までの平沢川緑道にもアナベル(アジ

サイ)を植栽して、市の玄関口として相応しい景観づくりの他、市内各所や他県にも苗木を配布してアナベルで関係を築いています。また、園児や児童が進める花育やゴーヤ苗の配布、グリーンカーテンの指導、実ったゴーヤと地元名物のこんにやくとをアレンジした料理の開発・普及にも取り組み、花と緑を通じて地域の活性化に貢献し、広域にわたって一緒に花を育て、係わりあう仕組みを考案、実行している活動が大変高く評価されました。

団体部門 富士市花の会（静岡県富士市）

「いただきへのはじまり」をスローガンに加えてリスタート



1967(昭和42)年に2市1町が合併した際、生活環境の悪化を危惧した花好きの住民750名で道端や荒地に花壇をつくる会を組織したのが活動の始まりでした。現在、会員は50代から80代の700名で活動しています。「花づくりを通して明るい家庭を築くこと・緑化運動を推進すること・美しいまちづくりに貢献すること」そして「いただきへのはじまり」をスローガンに加え市内全域の38ヶ所で花壇づくりに取り組んでいます。

花壇に植える花苗の半数は会員が種から育て、通学路や公園などの目に

付く場所の花壇では、見る人の心を癒せるように色鮮やかなデザインとなるように心掛けています。また、花壇づくりは「土づくり、苗づくり、管理」が大事と認識し、市が行っているスキルアップ講座に参加して栽培技術の向上を図り、情報収集を兼ねて他県を視察して交流の輪も広げるなど、花のまちづくりを多面的に展開しています。会と行政の関係は良く、市が開催するイベントなどにも積極的に参加するなど、一連の活動と成果が大変高く評価されました。

団体部門 アドプト・ロード・万博北 (大阪府茨木市) 制度を利用して線から面に広がる心地よいまちを具現化した地域愛



2005(平成17)年から14年間、万博記念公園外周道路と府道1号線の一部や大阪大学病院の周辺を中心に花壇づくりに取り組んでいます。

幹線道路の路側帯や植樹帯に雑草が茂り、不法投棄も多発していた状況を改善しようと4人で清掃を始め、大阪府とアドプト・ロード協定を結びました。分担区域を決める以外は会員の自主性に任せた無理のない体制で活動しています。投棄ゴミの清掃や藪の伐開、開墾を経て、花の植栽をコツコツと進め、活動範囲は約4haに広がりました。過酷な植

栽環境にあるこの面積を22名で管理するため、草花の種類を試行錯誤し、落葉や植物残渣でマルチングしたり、堆肥として利用するなど省力化も図って維持しています。

綺麗な環境を維持したいという住民の想いがアドプト制度を活用して実現し、ゴミの激減や景観向上、安心安全なまちなどの成果が道路を軸に面的に広がっています。また活動を通じて、地域交流や会員の健康維持にも繋がっていることが大変高く評価されました。

団体部門 サンセット一宮花仲間 (兵庫県淡路市) 花で癒されて、やすらぎ、友人づくり、人づくり、まちづくり



ヨーロッパ旅行で見たイングリッシュガーデンに魅せられたのがきっかけで、県道沿いの沿道公園の花壇づくり、休耕田を利用したビオトープづくりなどを2006(平成18)年から13年間活動しています。今の会員数は20名です。

夕日の美しい海岸沿いの県道はサンセットラインと呼ばれ観光の名所でしたが、管理不足で雑草が繁茂し景観を大きく損ねていました。沿道公園の花壇は海岸が近いことから潮風に強い植物を選んで植栽計画を

立て、景観性が良くなるようにデザインし、多年草をベースになるべく人手もかからないように工夫した花壇づくりをしています。海岸沿いのため常に海水や潮風にさらされる悪環境の下、その条件に耐え、観賞的にも見映える植物種の選択を根気よく考え続けてきました。植栽後の管理も継続的に注意深く行ってきたことで、厳しい条件を乗り越えつつ、美しい花壇を長年にわたり維持管理し、その成果がしっかり発揮されていることが大変高く評価されました。

団体部門 長岡市立桂小学校 (新潟県長岡市)

花の力で明るく潤いのあるまちづくりを推進



農村域にある児童数39人、教職員13名の小学校で、「花を育て、花に学ぶ」を合言葉に花壇活動をしています。この活動は子供達の情操教育に資するようにと1961(昭和36)年から始め、来年は60周年を迎えます。

校内には地域の古墳に因んだ花壇など5つの花壇を設け、自分たちが種子から育てた花苗を植えています。花壇づくりは学年を越えた縦割り班により、班内で協力しながら、上級生からの指導を受けて下級生も一緒にデザインするなど、児童が主体的、自主的に取り組んでいます。

児童数が少ないため、地域ボランティアの「花の会」と連携し協力が得られています。今年度からは住民がオープン参加できる花づくり大学が開講し、「花の会」や「花づくり大学」を通じて地域住民と連携が進み、地域への花の拡大をいっそう図るとともに、福祉施設とも花による交流が深まりました。長年にわたる教育活動の中での花の自主的な活動は、花を通じた情操教育のみならず、地域との連携と将来を見据えた学びのモラルとなるもので、大変高く評価されます。

大賞受賞者に見るイノベーション

コンクール審査委員長 輿水 肇 (審査講評より抜粋)

今回の大賞受賞者に目を向けてみると、どの受賞者もイノベーションを図った取り組みが目を引きまします。特定非営利活動法人渋川広域ものづくり協議会は花の活動を線から面へと広げ、年3回のお花見イベントを新たに起こし、異なる世代を活動に巻き込むことで世代間交流を活発にさせています。また、活動に絡めて地元の農産物で新しい食品を作り出すなど、花を介したものづくりや関係づくりを地域に定着させ、創造的で多面的な活動をしています。富士市花の会は過去に優秀賞を2回受賞していますが、現状に満足せず花のまちづくりの先進地へ行って花壇づくりや組織運営などを研究、それを会の活動にフィードバックさせ、自身の活動の改善を図っています。いくつかの課題を克服しながら、活動を形骸化させずに活性し50年間も継続させています。アドプト・ロード・万博北は手つかずになっていた道路に沿った緑地で、

草花栽培には過酷ともいえる場所でしたが、様々な工夫を凝らして花の生育環境を改善し、ローコストで大面積の花壇づくりと最大限の成果が発揮されています。善意と向上心に満ちた活動が、自己実現と環境美化という両面で昇華した取り組みといえます。サンセット一宮花仲間は海水や潮風をまともに被る場所での花壇づくりで、試行錯誤を何度も繰り返すことでこの環境に耐える植物を探し出し、地道でアリケートに植物と接し続けてきたことで、美しい景観に花を添えることができ、活動を広めることに成功しました。最後に長岡市立桂小学校は農村域の小規模校にもかかわらず、それを不利と感じさせることなく、地域と新たに連携することで花壇づくりの組織が拡大し、小学校が核になった地域活動にまで発展しています。間もなく60年となる活動は3世代を超し、花のまちづくりが地域のDNAとして定着しています。

市町村部門 小松市 (石川県小松市)



県西南部に位置する県下第3の都市。人口は約10万8千人で、2011(平成23)年に北陸3県では初めて「環境王国」の認定と、本年7月にはSDGs 未来都市にも選定されました。

花のまちづくりは2000(平成12)年のフラワータウン推進事業から始まりました。町内会や学校、保育園等を対象に、約100団体に花苗支給等を行ってきましたが、2013(平成25)年にこの事業を発展させ、市民と行政とが一体となって市民共創で取り組む「フローラルこまつ」を主要施策として立ち上げました。さらに2017(平成29)年には第2期推進プランを策定し、市内の推進団体は572、個人会員は872人となり、市街地の道路沿いやコミュニティセンター、公園、学校、駅、企業などで花を植え、個人ではオープンガーデンなど、市内全域に花のまちづくりが発展し定着しています。

花と緑の人材育成を積極的に進め、年に40回の園芸講座を開くなど、スキルアップ講座やリーダー育成など市全体で花のまちづくりを実践している優良事例として高く評価されました。

団体部門 五霞町立五霞中学校 (茨城県五霞町)



農村地域にある中学校で、生徒数は168人。教育活動には豊かな環境づくりが欠かせないという考えのもと、身近にある美しいきれいなものに触れる喜びや育てる体験ができる花いっぱい学校づくりを2013(平成25)年より7年間取り組んでいます。正門と通用門からのエントランスや校舎の周りなどで約6,500株の花を植えています。

活動の中心は生徒会の環境美化委員会で、年間の花壇計画を作り、生徒とPTA、教職員、地域ボランティアなど地域全体の協力のもと、花いっぱい緑豊かな潤いのある環境づくりに取り組んでいます。また、校内で育てた花苗の一部は、地域緑化の一環として、町内の人々が集う施設などに贈られています。

同校の活動を通して花や緑による交流の輪が町内全域に広がりを見せており、地域とともに開かれた学校となっていることが高く評価されました。

団体部門 とちお花企画 (新潟県長岡市)



この活動はふるさと創生基金を出発点として、旧栃尾市(平成18年に長岡市と合併)が提唱した「地域花いっぱい運動」が契機となりました。地域の花壇づくりを通じて、住民間の連携を深めて地域づくりへの関心を高めることを目的に有志がグループを結成したことから始まり、現在、70代を中心とした35名のメンバーが体育館や地区中心部での花壇づくりや環境美化に取り組んでいます。

栃尾地域全体でも花に関する様々な活動や福祉施設での花苗生産など、地区間での人的交流も図られており、それらの広範囲な活動の中心的存在となっています。技術講習会の開催や地域中心部の花壇での花いっぱい植栽大会開催など、花のまちづくりの機運を地域に定着させるために、約30年間にわたりリーダーシップを発揮してきたことが高く評価されました。

団体部門 富山市立船嶮小学校 (富山県富山市)



児童数が54人の小規模な小学校で、花壇づくりは1975(昭和50)年より44年間取り組んでいます。校内にはドリームガーデンとウインドガーデンの2つのメイン花壇があり、ドリームガーデンは1年生から6年生までの異学年でつくる8班の若草グループが花壇づくりをしています。それぞれの花壇は自分たちでテーマとデザインを決め、6年生が低学年に花の育て方を教えたり、花壇で低学年が手の届かないところがあれば、上の学年の児童が手伝ってあげたりなど、活動を通して責任感や自主性、協力性が育まれています。ウインドガーデンは栽培委員が中心となって花壇づくりし、来校者を花が迎えてくれます。

花壇づくりは、地域ボランティアがサポートしたり、夏休みには当番を決めて親子で水遣りをするなど、小規模校ならではの地域に根差した活動が高く評価されました。

団体部門 私たちの庭の会 (愛知県一宮市)



1999(平成11)年から市内の公園10ヶ所と駅前広場2ヶ所で官民協働の花壇づくりに取り組んでいます。この活動は市長に届いた「近所の公園を「私たちの庭」と考え、生ゴミ堆肥を活用して花を植え、ゴミの減量と地域コミュニケーションの拡充を図りたい」という市民の声を契機に始まりました。一宮駅前広場を除く各花壇に支部が置かれ、全体の運営は本部役員と支部長、事務局(行政)による役員会で総括されています。支部毎に主体的で細やかな花壇管理が実現し、オリジナルの堆肥を活用することで花がいつも生き生きとしています。市の緑化推進活動にも積極的に貢献する他、主催イベントを通じて会員の地域間交流や市民交流も盛んになり、12ヶ所118名の活動に広がりました。

20年間花のまちづくりを牽引してきた実績が参加者の自負に繋がり、地域に定着した活動になっている点が高く評価されました。

団体部門 花の仲間たち (福岡県福岡市)



近隣住民の花好きが中心となって九州がんセンター内の花壇づくりを18年間行っているボランティア団体です。センター正面玄関横にある320㎡の花壇は、院内の患者やその家族、職員の憩いの場所となるだけでなく、地域住民の散歩コースにもなっていて、現在、20名で花壇づくりに取り組んでいます。

会には福岡市の認定を受けた緑化アドバイザーが数多く在籍しています。花は種から育てる、接ぎ木で増やすなどローコストを心掛け、宿根草を多く用いたローメンテナンスな花壇にもかかわらず、年間を通して花が絶えません。花の種類は患者の要望に応えるなど、癒しと憩いのあるコミュニケーションの場が創出され、花と緑による福祉が実践されています。

病院という特殊な場と環境化にありながら、花と緑が人の心に与える効果を十分に感じ取ることが出来る優良事例として高く評価されました。

個人部門 滝澤 善隆・市子 (長野県松本市)



1997年より22年間、自宅の庭を中心に花壇づくりを行っています。松本市オープンガーデンや花庭訪問の会に所属して、2000(平成12)年から自宅を開放し、期間中の見学者は約500人になります。新築時に玄関へのアプローチの両側に花を植えて、庭や植物から楽しさや癒しを得たことをきっかけに活動を始めました。以後、それを伝える花のまちづくりを地域や花仲間と一緒に活動し続けています。

自宅は小高い場所にあることから、北アルプスが庭を通して眺望できるように工夫を凝らすなど、独自性と季節感のある庭づくりを心掛けています。県道沿いであることから許可を得て道路法面にも花を植え、自然と景観に配慮した手作りの庭が特徴的です。また、2002(平成14)年に発足させた「花庭(かてい)訪問の会」でつくる小冊子を2017(平成29)年に手掛けるなど、多方面での活躍もみられ、そのすべてが地域に引き継がれていることが高く評価されました。

個人部門 高島 孝子・直宏・千鶴 (香川県三豊市)



瀬戸内海に浮かぶ周囲4kmの志々島で、家族3人で花畑を作っています。荒れた畑に自家生産したキンセンカやマーガレットなどを植えています。志々島は、かつて花卉農家が100軒以上あり、「花の島」と呼ばれるほど花畑が広がっていました。1,000人いた人口も現在では16人に減少し、花卉農家はすべて廃業してしまい花畑も無くなってしまいました。昔のような花畑を復活させたいという想いで活動しています。

花畑は標高約50mの丘の上であり、車が通れる道が整備されていないので、肥料や農機具などを全て背負って運び、管理作業を行っています。年々、花の種類や活動面積を増やしており、島を訪れる観光客を楽しませています。水道が無いような過酷な場所で、島の特産であった花を活かして観光名所をつくり、国内外の多くの観光客を呼び込んだことが高く評価されました。

企業部門 パナソニック洲本園芸部 (兵庫県洲本市)



リチウムイオン電池等の製造・販売を行う企業の工場内や多目的ホール周辺の590㎡で花壇づくりを行っています。四季折々の草花を咲かせることにより、社員の心を和ませ、働きがいのある職場づくりを目指そうと園芸部を結成し、22年間活動を続けています。メンバーは従業員の29名です。2002年からあわじオープンガーデンにも所属し、年2日の開催期間中は約100名の見学者が訪れています。

花壇やプランターには自分たちで育てた年間3,000本もの苗を植えるとともに、オープンガーデンの際には無料配布しています。多目的ホール周辺や県道付近の庭園「サンガーデン」は通年開放しており、デイサービスセンターの高齢者が利用するなど周辺住民との交流ができる場として活用されています。また、咲き終わった花や社員食堂で出た生ごみを堆肥化して無料配布するなど、環境に配慮した取り組みなどが高く評価されました。

市町村部門 「普通寺五岳の里」 市民集いの丘公園 (香川県普通寺市)



普通寺市は香川県の西北部に位置する普通寺の門前町です。市の職員として市の新たな産業、観光資源の創出を目的に、植物とガーデニングの専門家を雇用し花のまちづくりに取り組んできました。その拠点施設として2010(平成22)年に「普通寺五岳の里」市民集いの丘公園を開園し、花のまちづくりを進めています。

この公園では園芸教室を開き、花栽培の技術指導や花と緑のイベント開催などで花の魅力を発信する他、市民間の交流や市民活動を発信する場としても利用されており、花のまちづくりの拠点施設の役割を果たしています。この公園が市で進める花のまちづくりにおいて、市民の自主的な活動として定着に貢献している点が評価されました。

団体部門 厚木市学生ボランティア団体「ほくら」(神奈川県厚木市)



厚木中学校のボランティア活動部OBが2017(平成29)年に立ち上げた団体で、大学生と高校生18名が所属しています。駅前周辺や相模川の清掃、特定外来生物の駆除活動などに継続して参加する他、市道の植樹帯(13.5㎡)において道路里親制度による花壇づくりにも取り組んでいます。活動は地元の専門家から指導を仰ぎ、花のプランターを提供しています。また、寄せ植え教室やコミュニティカフェを主催したり、関東圏の学生団体の連絡会を立ち上げたりなど、世代や地域を越えた交流を積極的に行っています。

活動期間は2年あまりですが、学生・生徒の斬新な取り組みとして注目され、地域への波及効果が高い点や将来性がある点が評価されました。

団体部門 ルネ東林間自治会「サークルふれあいガーデン」(神奈川県相模原市)



前身の老人会である「ときわ会」の時代から45年間活動しています。現在の会員は60代から70代までの10名で、相模原市東林間公園内の花壇200㎡で活動しています。様々な花が咲き、地域住民が和み楽しめる花壇づくりを目指しています。

作業カレンダーを作成し、チームごとにシフトを組んで活動するだけでなく、活動日以外にも自主的に花の世話をしています。活動は地域住民にも認められ、メンバー以外の人も積極的に作業に参加するだけでなく、花壇活動費の寄附を申し出る人もいます。長きにわたり、活動を続け、世代や組織を越えた花の輪が地域に定着している点が評価されました。

団体部門 射水市立塚原小学校(富山県射水市)



住宅地域にある児童数143人、職員数18名の小学校で、1982(昭和57)年から約35年間、校内の花壇づくりに取り組んでいます。2014(平成26)年には、より多くの人に花壇を見てもらえるように、校舎東側にPTAの協力を得て花壇(175㎡)を移設しました。

土づくりは年初にPTAと教職員が行い、花壇のデザインは全校投票で決めます。栽培委員会が花苗の植え付けを行い、維持管理は地区ごとに学年を縦割りした班で全児童が地域ボランティアと一緒にしています。

花壇活動を通じて地域の人々とのつながりが生まれ、様々な地域交流に発展しており、地域の伝統として継承される取り組みに昇華している点が評価されました。

団体部門 長野県須坂創成高等学校(長野県須坂市)



2015(平成27)年に須坂圏芸高等学校と須坂商業高等学校が再編統合され、農業科と商業科、新たに工学科が新設された公立の総合技術高校です。花と緑のまちづくりの取り組みは、前身の須坂圏芸高校から数えると27年間におよびます。

花壇づくりは、学校をバックアップしてくれる地域の方々へ感謝の気持ちを込めて取り組んでいます。須坂駅から伸びる歩道橋には自分たちで育てた花をコンテナに植えて飾り、学校の敷地と接する交差点には花フレンドパークと呼ぶ花壇づくり、鹿線となった長野電鉄河東線沿線跡地には記念公園を設計・植栽するなど、地域に密着した実業高校ならではの花のまちづくりを展開し、地域とともに歩む活動が評価されました。

団体部門 エコ・ガーデンと愉快的仲間たち(福岡県福岡市)



城南区の西に位置する西南社の湖畔公園がオープンしたことで、ほど近い梅林緑地公園も綺麗にして、梅林地区全体を美しく潤いのある、ゴミ・犯罪のない町にする活動の一環として2009(平成21)年から活動しています。

元々緑豊かだった公園をさらに花と緑で清潔感のある憩いの公園にしようと、四季を意識して低木類や草花を植え、散策路を中心に毎朝落ち葉やゴミを清掃することで、多くの人たちが気持ちよく利用できる公園を目指しています。年間を通して来園者が楽しめる工夫や他団体との講習会、パネル提示などの啓発活動、増した花苗の交換など、花のまちづくりを積極的に取り組むことで地域のイメージアップに繋げている点が評価されました。

団体部門 島原市立第一中学校 (長崎県島原市)



生徒数は351人、職員数34人。約30年前に生徒と教職員で花壇活動を行っていました。20年前に市内の他の中学校が長崎県花壇コンクールで最優秀賞を受賞したことで、市の教育課から活動資金が支給され、本校でも本格的に花壇活動を行うようになりました。

2014(平成26)年の長崎県体や2016(平成28)年のねりんピックでは、学校で育てた花苗やプランターを競技会場へ提供するなど、地域との交流の場となるような活動も行っています。花壇の土づくりから草取り、栽培管理、校内緑化など、全生徒と教職員、育友会が一体となった校内を花いっぱいにする活動が評価されました。

個人部門 松本 茂治 (群馬県館林市)



2000(平成12)年から3年間、ギリシャの日本人学校に教員として勤務したことから、帰国後に「ギリシャ神話の庭」づくりを始めました。自宅や隣接する浴道などで、ギリシャ神話にまつわる像と植物を組み合わせたデザインによる庭づくりに、2005(平成17)年より15年間取り組んでいます。

さらに2018(平成30)年、小学校の教員を退職したことをきっかけに自宅の庭(150㎡)の他、実家の田畑の畔(50㎡)、母校の小学校および地元公民館(200㎡)、友人の美容院(20㎡)、勤務経験のある小学校などにも花壇活動を広げるなど、地域に根付いた活動が評価されました。

個人部門 益田 満智子 (静岡県吉田町)



吉田町を花でいっぱいになりたい想いをもち続けていましたが、ようやく時間が取れるようになった2011(平成23)年から花壇づくりに専念するようになりました。自宅前の道路沿いの花壇には色とりどりの草花が咲き揃い、同時に花桃や桜も咲くので見事な春の景色になっています。2012(平成24)年から始めたオープンガーデンには約300人が花を楽しんでくれます。また秋には、かつて町内で盛んに栽培されていた菊づくりの伝統の技を受け継いで、盆栽や懸がいつくり、だるまづくりなどに仕立てた菊の鉢飾りも好評です。

この他にも、町内の支援学校の花壇、仲間10人と小学校の花壇、吉田町花の会での花壇づくりなど、活動場所を増やしている点が評価されました。

企業部門 株式会社ホテルサンバレー (静岡県伊豆の国市)



伊豆長岡温泉で1982(昭和57)年に創業した従業員160名のホテルです。温泉のまちを花で活性化するとともに、地域住民に季節の移ろいや花の美しさを感じてもらおうと、憩いや安らぎの場を提供することを旨として活動しています。

創業時より、国道414号に面した駐車場入り口で花壇づくり(96.8㎡)をしています。活動は社内の園芸部が主となり、植栽計画、花の配置、花選び、スケジュール調整等を行い、それによって従業員が協力し合って作業しています。花壇づくりは従業員同士の交流の場にもなっているなど、地域の活性化だけでなく、花を通じた交流にも力を入れている点が評価されました。

企業部門 株式会社ベースワン (滋賀県彦根市)



キャラクターグッズなどのお土産や雑貨の企画製造・卸販売業で、従業員数は約100名です。2016(平成28)年に移転した工場に隣接する約3,000㎡の耕作放棄地に、従業員の憩いの場や地域住民と触れ合える場、全国から異業種の人々が集える場となるよう、様々な要素がある庭づくりを始めました。吹風モルタル造形の庭は2017(平成29)年にSNSで全国に発信し、ワークショップの参加者とボランティアの作業により完成しました。現在、市と連携してガーデナー養成や米原駅東口再開発への協力などの構想が検討されており今後の展開が期待されます。SNSやクラウドファンディングの活用など、IT世代によるユニークな活動が評価されました。

花のまちづくり入選

貝ヶ森ガーデンサポーター



団体部門

宮城県仙台市

会津若松市立川南小学校



団体部門

福島県会津若松市

喜多方市立第一小学校



団体部門

福島県喜多方市

鳥栖新田花いっぱい愛好会



団体部門

茨城県鉾田市

東野寺地区資源保全活動組織



団体部門

茨城県かすみがうら市

門部鹿島環境保全会



団体部門

茨城県那珂市

那珂市立菅谷小学校



団体部門

茨城県那珂市

川場美しいマチ研究会



団体部門

埼玉県新座市

習志野台団地自治会 花愛好会



団体部門

千葉県船橋市

おやじ&おふくろの会



団体部門

千葉県我孫子市

片上まちづくり協議会 生活環境部会



団体部門

福井県鯖江市

中郷地区婦人会



団体部門

福井県敦賀市

掛川市立千浜小学校



団体部門

静岡県掛川市

磐田市花の会 磐田支部花の会



団体部門

静岡県磐田市

長尾川の土手に花を植える会



団体部門

静岡県静岡市

マークス・フラワーチーム



団体部門

静岡県静岡市

関田東高砂会



団体部門

愛知県春日井市

春日井市立岩成台中学校



団体部門

愛知県春日井市

花いち会



団体部門

愛知県半田市

有脇真古的薬師水再生委員会



団体部門

愛知県半田市

いきいき刈谷友の会 ガーデニング部会



団体部門

愛知県刈谷市

刈谷市小垣江地区自治会



団体部門

愛知県刈谷市

がまごおり花フル会



団体部門

愛知県蒲郡市

綾部バラ会



団体部門

京都府綾部市

花のまちづくり入選

ガーデニング倶楽部



団体部門

兵庫県神戸市

尼崎市立南武庫之荘中学校



団体部門

兵庫県尼崎市

伊丹市 フラワーリーダー 8期生



団体部門

兵庫県伊丹市

網干公園みどりの会



団体部門

兵庫県姫路市

鶴野中町花家族の会



団体部門

兵庫県加西市

寺本自治会 華の部



団体部門

兵庫県伊丹市

西宮市社会福祉協議会 地域共生館ふれぼの



団体部門

兵庫県西宮市

島根県立廻摩高等学校



団体部門

島根県大田市

名塩さくら台景観緑化クラブ



団体部門

兵庫県西宮市

みどりちかまる推進局



団体部門

福岡県福岡市

平岩まちづくり協議会



団体部門

宮崎県日向市

金子 實



個人部門

神奈川県川崎市

佐野 誉志照・恵美子



個人部門

静岡県浜松市

寺尾 康男・桂子



個人部門

兵庫県朝来市

尾花 幸雄



個人部門

兵庫県加西市

諏訪 早苗



個人部門

兵庫県姫路市

三村 雅之



個人部門

兵庫県姫路市

末松 和佳子



個人部門

兵庫県神戸市

中谷 邦子



個人部門

兵庫県豊岡市

太田 よしの



個人部門

兵庫県香美町

門脇 きみ子



個人部門

兵庫県多可町

株式会社昭和観光



企業部門

茨城県鉾田市

コマツ茨城工場 茨城なでしこプロジェクト



企業部門

茨城県ひたちなか市

東京ステーションシティ運営協議会・株式会社鉄道会館



企業部門

東京都千代田区

花のまちづくり入選 / 努力賞

ゲストハウス リッチモンド



企業部門

静岡県焼津市

医療法人凍和会 藤枝駿府病院



企業部門

静岡県藤枝市

医療法人財団 篠原医院



企業部門

静岡県菊川市

損害保険ジャパン日本興亜株式会社



企業部門

愛知県名古屋市

努力賞
若葉賞

NPO あおもり〜な



団体部門

青森県青森市

チーム カサブランカ・さくらハーバリウム会・
福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
相双地域支援サテライト



団体部門

福島県富岡町

努力賞
年輪賞

三田ヶ谷景観整備促進クラブ



団体部門

埼玉県羽生市

菊尾 安正・希美子



個人部門

兵庫県たつの市



人間の道をつくるなら、 動物の道もつくれ。

ドイツの森が、そう語りかけている気がした。

KOMATSU D65PXi-18/PC210LCi-11/HM300-5

ドイツの高速道路「アウトバーン」の建設現場から、動物たちと最新テクノロジーの報告をします。

雨に濡れた森は、絵本で見るような深い緑色だった。早朝の光の中に、ロールケーキを二つ並べたような橋が見えてきた。通行人は、ウサギ、キツネ、シカ、オオカミ。それは、「アニマルブリッジ」と呼ばれる動物のための橋。

ドイツでは、生態系を守るために必要と判断すれば、アニマルブリッジがつくられる。このエリアでは、8.5kmの短い区間に、2本の橋がつくられる。豊かな森と動物たちの住み家があることを物語っている。この橋にも、これから土が運び込まれる。ダンプトラックHM300の仕事だ。土を橋全体に敷き詰めていくのはブルドーザーD65PXi。やがて草木が根を張り、橋は自然の森に近づいていく。人間だけがつくるのではない。太陽が、雨が、そして時の流れが、アニマルブリッジを育ててくれる。汗を流す油圧ショベルPC210LCiの黄色い腕にも、力がこもる。

実はこの現場では、ドイツで初めて「スマートコンストラクション」がテスト導入された。「スマートコンストラクション」とは、すべての建設プロセスをデータでつなぎ現場をデジタルトランスフォーメーションしていくこと。事実、建設機械の動きを分析し共有することで、生産性が30%あがったという。未来の現場が、ドイツでもはじまっていた。

*アニマルブリッジの現場の様子を、ぜひ二次元コードからご覧ください。

人のための
道具だから。
社会のための
道具だから。

Global Teamwork
KOMATSU

コマツ
〒107-8414 東京都港区赤坂2-3-6
FAX 03-3505-9662
<https://home.komatsu.jp/>

*建設機械は海外仕様モデルを含みます。

第29回(2019年) 全国花のまちづくりコンクール

花博の理念を継承してこの事業を推進しています。



提唱

農林水産省
国土交通省

主催

花のまちづくりコンクール推進協議会
公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 公益財団法人都市緑化機構
一般財団法人日本花普及センター 公益財団法人日本花の会

後援

文部科学省 全国知事会 全国町村会 全国市長会 **NHK** (一社)日本新聞協会 (一社)日本経済団体連合会

協賛

(一社)日本花き生産協会 (一社)日本花き卸売市場協会 (一社)日本生花商協会
(一社)JFTD (一社)日本インドア・グリーン協会 (一社)日本種苗協会
(公社)日本フラワーデザイナー協会 (公社)日本家庭園芸普及協会 (公財)日本さくらの会
(一財)日本緑化センター (一社)日本植木協会 (一社)日本公園緑地協会 (一社)日本公園施設業協会
(一社)日本造園組合連合会 (一社)日本造園建設業協会 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
(一社)沖縄美ら島財団 (一財)公園財団 全国公園協会協議会 (一財)日本造園修景協会
(一財)地域活性化センター (公社)日本観光振興協会 (一社)日本ホテル協会

協力

KOMATSU

花のまちづくりコンクール推進協議会

事務局 公益財団法人 日本花の会・コンクール係
〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6 コマツビル TEL 03(3584)6531 FAX 03(3584)7695
<http://www.hananokai.or.jp>

表紙の写真 第29回 全国花のまちづくりコンクール大賞受賞作品より

上段左 アドプト・ロード・万博北 / 上段中 長岡市立桂小学校 / 上段右 特定非営利活動法人澁川広域ものづくり協議会
下段左 サンセット一宮花仲間 / 下段右 富士市花の会